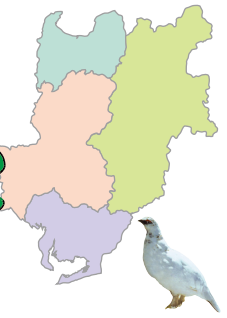




国民の森林・国有林

広報

中部の森林

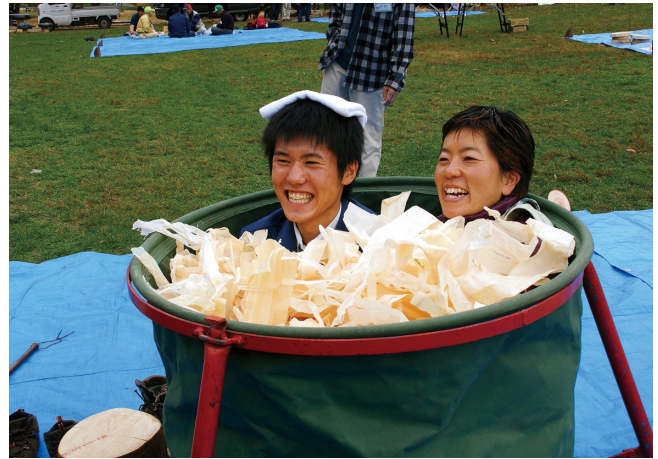


中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



「かんなくずプールで木とふれあう来場した市民」

森・ふれあいフェスタ

～自然と遊ぼう 森に学ぼう～を開催

(P4に関連記事)

主な項目	○ 平成21年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催…………… P2
	○ 民・国連携…………… P2～4
	○ 風景紀行「八ヶ岳」…………… P8

平成二十一年度 国有林野等所在市町村長 有志連絡協議会を開催

〔企画調整室〕十一月六日、松本市内において、平成二十一年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

会議には、管内十ブロックを代表する市町村長等、林野庁から奥田職員・厚生課長及び中山水源地治山対策室長、当局から城土局長、竹林次長、関係部長・課長等が出席しました。

冒頭、城土局長から、日頃の業務運営等への支援・協力に対する御礼を述べるとともに、局が取り組んでいる森林整備、災害対策、鳥獣被害対策等について説明し、続いて奥田職員・厚生課



国有林野等所在市町村有志連絡協議会の様子

長から、中央情勢についての説明等がありました。

意見交換では、各市町村長からそれぞれの実情を踏まえ、最近深刻になっているカシノナガキクイムシ等の被害についての活発な意見をはじめ、森林整備や治山事業の推進、地域振興への期待、官行造林の取扱い等、多岐にわたる発言があり、国有林の市町村に対する深い関わりと大きな期待が感じられました。

中部森林管理局では、伺った意見等を踏まえ、引き続き、開かれた「国民の森林」として適切に国有林野を管理経営していくこととしています。

なお、各ブロックで、次のとおり国有林野等所在市町村長有志協議会が開催されました。

ブロック	開催日
富山県	七月二十九日(水)
北信地区	十月十四日(水)
中信地区	十月七日(水)
東信地区	十月六日(火)
南信地区	八月二十七日(木)
木曾地区	九月三十日(水)
飛騨地域※	九月十五日(火) 九月十六日(水) 十月二十六日(月)
岐阜地区	九月二十九日(火)
木曾川※	九月二十八日(月) 〃十月十三日(火)
愛知県	九月二十八日(月)

(※は、各市町村に出向き訪問して実施)

民・国連携

木づかい推進月間

〔販売課〕中部局では、「木づかい推進月間」が展開されている十月期において、同時期に強調月間を迎える、国が提唱する「美しい森林づくり推進国民運動」や長野県が提唱する「ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間」と合わせ、民国連携による森林づくりへの参加や理解を深めていただくことなどを目的に、長野林政協議会活動の一環としてパネル展示等を実施しました。

これは、木づかい推進月間中の新たな取組として行ったもので、十月一日から十一月一日までの間、長野駅前ビルの「MIDORI」五階特設会場において、森林の働きや役割、地域材利用や国有林の取組についてパネル、パネンフレット、パネルによるPRやNPO法人等による間伐材レゴブロックによる親子ワークショップによる親子ワークショップによる親芝居、地域材利用相談会などを開催し、森林の大切さや地域材の利用などについての普及啓発に努



パネル展示風景

めました。

また、十月三十一日には、長野県木材青壮年団体連合会主催による木工ワークショップの表彰も実施され、「花馬祭り」を題材に中部森林管理局長賞を受賞した小学五年生の勝野仁美さんには、森林整



木づかい推進月間ポスター

備部長から賞状の授与が行われました。今後においても、木づかい推進月間などには、民国連携によるより効果的な活動を引き続き実施していくこととしております。

『美しい森林づくり in 飛騨』

を開催

『民有林の森林整備推進に向け連携』

【飛騨署】 昨年からは、飛騨森林管理署、飛騨農林事務所、地元市役所、森林組合が協働し、民有林所有者を中心とした地域の人達に森林整備推進を呼びかける催しを実施しています。

今年も、九月二十七日、高山市国府町を会場に「美しい森林づくり in 飛騨国府」を開催し、市内荘川町で一物造林組合が実施した計画的な路網開設と高性能林業機械による素材生産の事例が三島潔組合長から発表があり、続いてひだ高山森林組合からの利用間伐実例紹介や、高山市林務課から森林整備に関する支援施策等の説明、そして「利益を生む林業を目指して」と題してのパネルディスカッションを実施しました。

パネルディスカッションでは間伐材の有効利用としてペレット原料としての受け入れが始まったこと、間伐は実施する時期が林のその後の生育に大きく影響することなどが出席者から紹介されました。

その後、国府町地内の作業地へ移動し、

高性能林業機械による間伐の様子を見学しました。

十月三日には、飛騨市で初めて「美しい森林づくり in 飛騨市」が古川町を会場に開催し、この地域で熱意を持って林業経営を続けられている国府町の木戸脇進氏と宮川町の井畑萬氏両名による体験発表がされ、木戸脇氏は早期から間伐を実施し、伐採率も強めに実施することが森林造成上はもちろん、経営上も有効であると話され、井畑氏は自家山林のスキルの間伐を実施した収支等を公開されながら、今は補助金が拡充されていて収入にも繋がった、今まで育ててきた林を健全な状態に整備して次代に送るチャンスと話されました。お二人の熱心な話に参加者は聞き入り、大変参考になったと好評でした。

続いて飛騨農林事務所と飛騨市農林課から県・市の森林整備推進に向けた取組や施策等の説明があり、その後、飛騨市森林組合が実行中の間伐作業地へ移動



高性能林業機械による間伐作業

し、高性能林業機械による間伐作業を見学しました。

この二つの催しにはそれぞれ八十名〜九十名の参加があり、有意義なものとなりました。

低コスト・高効率作業システム

現地検討会の開催

【販売課】 世界的な不況による住宅着工

減少の中にあっても、合板や集成材は積極的に利用拡大が進んでおり、国産材の復活の兆しも見えてきています。しかし、価格上昇は望めない中で、収益を確保し、経営として成立する林業のモデルを示していくためには、低コスト・高効率の作業システムを定着させていく必要があります。

当局の今年度の取組の一つとして、全署等の実務担当者及び民有林関係者を対象に、十月十五日〜十六日にかけて木曾森林管理署奈良井国有林で、局長はじめ六十名余りが出席して現地検討会を開催しました。

講師には、低コストで壊れにくく搬出効率が高い路網の指導で有名な森杜（もりもり）産業の田邊由喜男氏と、林野庁業務課から鶴園企画官らの出席をいただきました。

田邊氏からは、路網開設での新工法「スイッチカーブ」（まだ名称は確定していない）を主体に、今までカーブを作れ



新工法「スイッチカーブ」の指導を受ける参加者

ないと考えていた箇所にもカーブができることを実演・指導いただきました。鶴園企画官からは、実際にスイッチカーブを計画するために、竹などを使用して作設前に現地にイメージを描き、どの様に作設されるのかを指導していただきました。講師にも恵まれ有意義な検討会になりました。

当局の低コスト・高効率作業システムの普及は、全国に遅れています。今年度各署等の実施箇所を回った様子では、事業体の取組も進んできています。この流れを更に加速していくよう、今後の各署等の取組に期待しているところです。

なお、田邊氏の実演はDVDを作成し各署及び参加した民有林関係者等に配布しており、有効な活用を願っています。

